

校長通信「学ばん共に」

その2 「旅の出会い」(野活帰校式 校長の言葉)



4月25日 金時山登山 頂上にて

旅には出会いがあります。「あいさつを交わす」「笑顔で接する」それだけでも出会いです。さらに言葉をかわせば、出会いはさらに深いものになります。野外活動中に、私が現地で言葉を交わした、ある人物とのエピソードや、その時に私が感じたことについて、お話ししたいと思います。

2日目、レストランで働く方に「3日間お世話になります。ビュッフェ形式に不慣れな生徒もいて、いろいろお手数をかけます。」と声をかけました。そうしたら、「いいえ、私たちはこれが仕事ですから。それに多くの生徒さんが周りのことを意識してテキパキやってくれるのでとても助かります。昨日よりもとてもスムーズになりました。立派なものです。」と言われました。優しい感じの笑顔の素敵な方でした。私も同じことを感じました。1日目より2日目、2日目よりも3日目…レストランでの皆のふるまいが良くなっていると感じました。「適量だけとって残食を出さない」「こぼさないように工夫して摂る」…それどころか、誰かがこぼしたところを拭き取る生徒もいて感心しました。また、食後にテーブルの台拭きをする時に自分たちのテーブルだけではなく周りのテーブルを何台も拭く生徒がいて、とても感心しました。そういう善意の行動には自然と目が惹きつけられます。

キャンドルセレモニーのスタンプにも惹きつけ

られました。みんなを楽しませようと…体を使ったパフォーマンスで笑いを作り出す姿勢…人前に立つことに緊張しながらも、自分の役割を果たそうと一生懸命演じる姿勢…そして、仲間と力を合わせて一つのものを創り出そうとする心意気…いずれも迫力のある、ダイナミックな表現でした。思い切ってマスクを外したことも、その表現力を高めた理由だと思います。なんでもチャレンジできる、温かな空気が流れる学年だからこそ生まれた、心の通ったパフォーマンスだと感じます。

さて、出発式で私が話した野外活動の目的四つ…覚えている人はどれだけいますか？ありがとう。「自然を感じ取る」「仲間と協力する」「ルールを守る」「困難に打ち勝つ」…「シナルコ」です。そして、私が予想した通り皆さんのほとんどが、この四つとも達成できました…私はそう確信しています。誠実…やる時はやる…可美中2年生…私はこの3日間で、この学年の良さ、そして、先生方との絆を強く感じました。大変なこともたくさんありましたが、それだけに思い出深い、素敵な旅になったのではないのでしょうか。でも、すでに、みなさんには次の旅が予定されています。それは1年後の京都・奈良修学旅行です。その旅のスタートは、7月10日月曜日です。その日の午後、3年生が修学旅行の報告会を2年生対象にしてくれます。3年生一人一人から語られるリアルな報告を…是非、楽しみにしててください。

最後にもう一つ。この3日間可美中HPで野外活動の記事を掲載しましたが、そのアクセス数は初日が **312**、2日目は **425**、最終日が **427** でした。合計アクセス数は **1164** です。観てくださったのは…保護者・地域の方・そして可美中1・3年生…野外活動でがんばる2年生を応援してくださった方々です。心から感謝したいと思います。まだ、観ていない人は是非観てください。また、こうした記事は、先生方が撮ってくれた画像やコメントを学校で留守を預かる教頭先生や石黒先生が一つ一つアップしてくださったものです。お二人にも感謝です。そして、朝早く見送りに来てくださったり、帰りに迎えに来てくださったりした家族への感謝も決して忘れてはならないと思います。私の話は以上です。最後まで聞いてくれて、ありがとうございました。(北村健治)